人との出会いを通じて、地域で学んだ事を誇れる子ども

取組目標

「子どもの元気は校区の力、地域の力。育てよう地域の輪・話・和」 子ども達と活動を進めながら地域住民の絆がつながっていく地域、 学校が連携協働できるようにする。

今年度の取組紹介

「さわやかクリーンデイ」&「100人絵本とカラフル市」

暖かく良い天候にめぐまれた 12 月 1 日、二名中学校と二名公民館とで、狭い道路をはさんで向かいあった立地を活かし、イベントを同日開催しました

中学生が、学校周辺・会場周辺の落ち葉などをきれいに掃除してから、 それぞれの分担された場所で大活躍してくれました。

学校敷地内では、生徒の作品展示や柿プロジェクトで作った柿クッキーや柿渋染め作品の販売や、かまどベンチを使い非常時の炊き出し体験として、参加者に豚汁をふるまいました。

西消防署・富雄消防団のご協力を得て、テント内で火災時の濃煙体験を

実施致しました。



また、生徒のデザインの「顔出し看板」を教員と協力して 作成することができました。

公民館での「100 人絵本」の受付にも中学生が一緒に携わり、多くの地域方々と交流することができました。

今年度のまとめ

今年度は、公民館と中学校の向かい合った立地を活かして、スタッフの方々と計画段階から連携・協力し、地域の方の参加が多かったので、中学生の活躍をたくさん見ていただくことができました。 スマイリー登校で仕上げた生徒の作品を教員の協力を得て看板作成できました。作品を通して行事に参加ができ、達成感や充足感が得られ生徒の自信につながったように思います。

プリント等で事前の防災学習を採り入れることで「さわやかクリーンディ」と各小学校区の「防災 訓練」参加の、中学生の積極的な行動にもつながり、防災の意識を高めることができました。

来年度に向けて

中学生をはじめ子どもたちの防災意識を高めていくことを目標に、次世代の人材を育成のため防災 学習をカリキュラム化とし、学校・地域が協力してすすめていきたいです。

また活動内容によって行事の名称変更も検討しています。

地域の子どもたちを、より多くの人材で見守り育てていきたいので、ボランティアの募集を継続してすすめたいです。

人との出会いを通して、地域で学んだ事を誇れる子ども

取 組目 標

仲間と共に積極的に学び合い、自らの考えを発表し、表現できる力を持たせる。 自主的に行動し、地域社会に貢献できる生徒を育てる。

今年度の取組紹介

二名中学校では、多くの地域の方に、この1年間、関わっていただきました。その中の2つの取組を紹介します。

まず、「放課後等の学習支援」です。5月から、2月までのほぼ毎週 月曜日に、「二名中寺子屋事業」として、地域の方に来校いただき、 数学や英語等の学習支援を行っていただきました。夏休みには、各学 年で行っている「学力補充事業」にも入ったり、「宿題サポート事業」 も行ったりしていただきました。生徒もたくさん参加し、本当にお世話 になりました。



次に、「読書活動推進事業」です。今年度、奈良市西部図書館の司書の方に毎月1度来校いただけることになりました。その機会を有効利用しようと、地域の方や多くの方にお越しいただき、本の整理の仕方などを教えていただきました。今では、図書館司書が来ない日も、地域の方のご支援で、図書室の本が整理され、図書委員も生き生きと活動し、図書活動が活性化されました。



二名中の活動に関わっていただいた全ての皆様に感謝の気持ちでいっぱいです。

今年度のまとめ

放課後の学習支援については、本校区では例年、力を入れた取組を行っています。今年度は、 その活動に加えて以下の点が大きく前進しました。

一つは、「教育環境の整備」です。生徒自ら花を植え、学校の環境を美化しているだけでなく、 中学生は地域の防災活動の大きな担い手であることも意識して、「さわやかクリーンデイ」などの行 事を積極的に行いました。その中で、本校の災害時に活用できる「かまどベンチ」での豚汁などを 地域の方に、ふるまいました。

もう一つは、各種取組の定着です。東大寺などの世界遺産での英語ガイド活動、障がい者や高齢者の理解体験活動、仕事の専門家から学ぶキャリア教育支援、地域と共に集う音楽発表会、一つ一つの取組が、本校の教育の柱としてカリキュラム化され定着し、生徒にとって有意義な活動になっています。

来年度に向けて

現在、地域の方と共に、不登校生徒の居場所つくりとして「スマイリー登校事業」を行っています。 今年度は、本校区の園・小学校の教職員だけでなく、地域の方と共に研修を行いました。生徒一人一 人に寄り添いながら、学校と地域で何ができるかを模索し、さらによりよき持続可能な教育を推進し ていきたいと考えます。

人との出会いを通して、 地域で学んだ事を誇れる子ども

取組目標

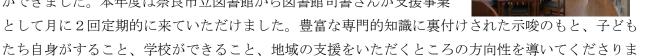
- ・地域の方々やゲストティーチャーの支援のもと本物を体験し、地域を愛する心、生きる 力を育むとともに、自ら考え行動できる児童を育てる。
- ・読書活動等を通して、読書に親しみ、豊かな心と言語力を育てる。
- ・校内における子どもたちによる「あいさつ運動」を始め、登下校時、地域の方々と元気 にあいさつを交わすことで地域との関係を深めるとともに、自尊感情やコミュニケーション能力を高める。

【今年度の取組紹介】

本年度も地域のボランティアやゲストティーチャーの方々の支援を受けながら、豊かな体験を通して学ぶ活動、子ども達に学ぶ楽しさが体験できる活動、子ども達の生き

る力を育む活動となるように事業を進めてきました。

「学校図書館の充実」と「図書環境の整備」を目標に昨年度から始めた「図書環境整備事業」ですが、本年度も順調に継続して活動することができました。本年度は奈良市立図書館から図書館司書さんが支援事業



した。魅力ある図書室になるためには、蔵書の充実、そして借りたい本がすぐに見つかり、子供たちの手によってすぐに元にもどせる配置や表示が欠かせません。それを実現すべく、本の除籍作業から始め、今では分類を明確にし、ラベルの張替え、配置の改善、分類の表示の明確化を進め、目に見えてステキな図書室に変化しました。無理なく継続できる地域教育支援活動となるように今後も取り組んでいきたいです。



【今年度のまとめ】

今年度も、交通ボランティアの方々による見守り活動で、子どもの安心安全、地域を愛する子どもの育成に繋げていただきました。また、家庭科等における学習支援やゲストティーチャーを招いての体験学習、図書ボランティアの読書活動などが、子どもたちに学ぶ楽しさを体感させ、豊かな学力を育成することに繋がりました。図書環境整備という新たな事業も軌道に乗りました。これまで築き上げてきたことを大切に継続させながら、学校・保護者・地域が協働してより充実した取組とすることができました。

【来年度に向けて】

目指すべき「地域としての学校像」をしっかりと共有し、学校と地域が協働して、本校の「目指す子ども像」「取組目標」をより高いレベルで具体化できるように努めたいと思います。その為に、今までの活動を継続可能なより充実したものとなるよう、内容の改善を図っていきたいと思います。

|めざす子ども像| 人との出会いを通して、地域で学んだことを誇れる子ども

取組目標 地域で育ち、地域に学び、地域とつながる二名っ子

今年度の取組紹介

○地域人材を活用した、「地域を学ぶ学習」と「地域でふれあう学習」(地域ふれあい事業)

本校では、地域に出向いたり、地域人材を学校に招いたりして「地域を学ぶ学習」を行いました。2年の生活科として、いつも見守りをしていただいている方々と地域を歩いて「まちたんけん」をしました。安全面に配慮していただきながら、ともに住む地域の話をしたり、お店の見学をしたりしました。3年では地域の神社やお寺でお話を聞き、6年は、地域の方から、地域の歴史を教えていただきました。



また、地域の方をお招きし、学びを豊かにする学習を実施しました。 1年の生活科「むかしあそび」で、地域の方や保護者の方にコマまわし、 だるま落とし、あやとりなどコツを教えてもらいながら一緒に楽しみま した。そのほかにも、地域の方をゲストティーチャーとしてお招きし、 どんぐり工作(1年図工)、声楽体験授業(4,5年音楽)を行いまし た。



○市立図書館の学校図書館支援と連動した「図書室環境整備と読み聞かせ」

今年度から市立図書館の司書の方の訪問が始まったことを機に、図書 室環境の整備を図書委員と地域ボランティアの方が中心となり、ラベル の張り直し、本の並べ替え、見出しの作成など、整備を進めています。 休み時間には、他の利用児童も参加することで、本への興味が高まって います。



また、以前から読み聞かせを行ってくださっている図書ボランティアの方と司書の方の座談会を行い、読み聞かせについての知識を深め、児童への読み聞かせやおはなし会がさらに充実したものになりました。

今年度のまとめ

今年度の取組でも、地域の方々にたくさん関わっていただきました。登下校の見守りや図書ボランティアなど、長年にわたり行っている内容もあります。また、教科学習に位置付けた交流等では、目的や実施方法を再確認しながら実施し、豊かな体験と地域に根ざした学習の充実につながりました。

このような活動をWebページ等で発信するとともに、地域の方を保護者に向けて紹介できる場面や地域の方をふれあい音楽会等に御招待し、児童の頑張りを見ていただける機会を設けました。このことで、児童と保護者、地域が学校という場を通してつながることができました。今後児童が、さらに「地域を誇れる姿」を見せてくれることを地域の方と一緒に心待ちにしています。

来年度に向けて

児童は直接地域の方と関わることで、見守っていただく安心感や感謝の気持ちをもつことができています。このようなことを保護者に向けて発信することで、家庭でも「地域とつながる」気持ちを深め、さらに地域とのつながりを深められる工夫をし、地域と共に児童を育てていきたいと思います。

めざす子ども像 人との出会いを通して、

地域で学んだ事を誇れる子ども

取組目標

心豊かにたくましく地域とともに生きぬく子どもの育成

今年度の取組紹介

<体験事業―お米をつくろう―>

地域の方にお米作りを教えていただきました。6月、田んぼの土と水を 用意してくださり、一人一人が自分のペットボトルに田植えをしました。 土を触りながら園庭の泥との感触の違いに気づいたり、成長を楽しみにし たりしながら土が枯れないように毎日少しずつ水を足して見守りました。 夏休み明けには、ぐんと伸びている稲の様子に驚き、保護者も興味をもち



子どもたちと一緒に生長を楽しみにされていました。10月、大きく成長した苗を刈り取り、はさが け、乾燥、脱穀をしてやっと10月末、子どもたちの収穫したお米(玄米)を持って帰る日となりま した。各家庭で食され、『白米と一緒に炊くと青和米はプチプチとした歯ごたえがあり、家族に自分 が作ったお米だと自慢しながらいただきました』『「お米1粒1粒を大切にいただこうね」と家族でお いしく食しました』等感想をいただき家族で生長・収穫を体全体で受け止め満喫できました。世話を し、生長や収穫の喜びを感じながら興味・関心・観察力が育ちました。子どもたちは継続して関わっ てくださった地域の方を'お米の先生'と呼び、親しみを感じ、お礼の手紙を送りました。この事業 にはたくさんの地域の方々が興味をもって関わっていただきました。

今年度のまとめ

- 地域の方々がコーディネーターの方を中心に積極的に関わっていただき、子どもたちは感動を共 有し、地域の方々との触れ合いを通して人の温かさや優しさを感じることができました。
- 地域の方々の子どもたちに体験してほしいと考えてくださる熱い思いを受け連携しながら保育内 容を工夫し「花生け」「柿渋体験」「木工遊び」等園児は様々なひと・もの・ことと出会い、ふれあ い、心動かし、生活の幅を広げることができました。「家庭では経験できないことができた」「今後 も続けてほしい」「貴重な体験を教えていただいた地域の方々に感謝します」などとの保護者からの 評価を受けました。

来年度に向けて

本年度の取組をさらに深め、地域の方々にも積極的に参画していただき、地域の特色を生かした保育 内容を工夫し、園運営をすすめていきたいと考えます。また、子どもたちや保護者にも地域の方々に見 守られていることを発信しながら、地域を知り、好きになり、大事に思えるように様々な体験活動の充 実を図っていけるよう努めていきたいです。

人との出会いを通して、 地域で学んだ事を誇れる子ども

取組目標

地域の方々との関わりを通して、子どもたちの興味・関心を湧きたてる ような体験活動の実施

今年度の取組紹介

〈ふれあいデー (未就園児保育) サツマイモの栽培〉

在園児やふれあいデー参加の未就園児親子に、サツマイモの成長や収穫の喜びを感じてもらうことを目的に、地域の方々をゲストティーチャーとして迎え、サツマイモのつるさしを行いました。最初に地域の方からつるさしの仕方を教わり、子どもたち一人一人に「上手く植えられていますよ」「大きくなるのが楽しみですね」など優しく声を掛けていただきながら、サツマイモのつるさしをしました。参加した未就園児の保護者からは「収穫するのが楽しみです」「こんな経験は初めてで楽しかったです」などの感想を聞かせていただきました。在園児からは「やさしく土をかけよう」「植えたら水あげよう」「大きなサツマイモになるかな」など成長を楽しみにする姿が見られました。

その後、在園児は水やりや草引きなどの世話を通してサツマイモの成長を感じ、未就園児は、ふれ あいデーの時に「つるが長くなっている」など興味をもって成長を見ていました。地域の方も時々園 に立ち寄ってくださり成長の様子を見て、世話の仕方を教えてくださいました。

11月収穫の時期を迎え、地域の方々や在園児 ふれあいデー親子でサツマイモを収穫しました。 地域の方と一緒に土を掘りサツマイモが出てき た時は、「すごい」「大きい」と歓声が聞こえ、 みんなで収穫の喜びを味わうことができました。





今年度のまとめ

地域の方々の協力を得て、様々な体験をすることで子どもたちは地域の方へ親しみを感じ、感謝の 気持ちを伝えたり自分から話しかけたりする姿が見られるようになりました。子どもたちは、地域の 方々の温かい心に触れ安定し、人とのかかわりを広げていくことができました。また、今年度は、ふれあいデーの内容の見直しを行い、さくらんぼ組($0\cdot1$ 歳児)といちご組($2\cdot3$ 歳児)に分け、年齢に応じた活動を実施してきました。年間を通して地域の方に参加していただき「1年間の子ども たちの成長を感じました」という意見を聞かせていただきました。

来年度に向けて

子どもたちが、地域の方々の協力を得て行った様々な活動で学んだことや感動体験を日々の保育の中に活かし、より保育を充実させていきたいと考えます。今後も地域の皆様と連携を密にしてご協力やご理解を得ながら、地域に開かれた幼稚園になるよう努めます。